



①元美容室を改装。予算削減のため積極的に大工さんの手伝いも。店先のカウンターとベンチ席で、古道歩きを癒したい。オリジナルTシャツも手にとって見ることができる。②フードロスなくしたいと、余すことのない個数で販売している。③本宮町の採れた卵。仕入れは地元の顔なじみから毎日、安心食材を仕入れている。④熊野古道・大日越の入り口に店を構えたのも、国内外の方に和歌山の魅力を伝えたいという思いから。⑤「カウンターから顔を出していると、近所の方が車のスピードを緩め声を掛けてくれるんですよ」。



「パティシエとして一流を目指したい。これからもおいしさへの挑戦は続けたい」と力強い言葉が。

Chouxの オリジナルグッズ

①②こだわりのロゴマーク。本宮のシンボル大斎原の鳥居と人の和を表している。オリジナルのトートバッグやマグカップは土産物として人気。③本宮町で栽培された釜炒りの番茶「なっ茶」もテイクアウトできる。④田辺市上芳養のレストラン「キャラバンサライ」とコラボレーションして作ったTシャツ。収益は、地元の学校の調理実習の材料費に。「地元の食材を大切に。食育も考えていきたい」という思いで制作したと実咲さん。



シュークリームに和歌山と熊野の魅力を込めて

パティシエ ● 矢倉実咲

2020年夏、本宮町にオープンした“choux(シュー)”。オーナーパティシエは、白浜町出身の矢倉実咲さん。「小さい頃から言い出したなら聞かない子と、母から言われていました」ことにはかむ。パティシエへの第一歩は、高校時代の洋菓子店でのアルバイト。その後、製菓学校で学び、東京で腕を磨いた。ある日、訪れたレストランで感動の味に出会う。「コレ、美味しい!」と思った食材が和歌山産だったんです。それをきっかけに和歌山への帰郷を決めました」と、子供の頃からの性格が顔を覗かせ即座に動いた。

まずは、地元白浜にUターン。ホテルのパティシエとして勤務しながら、農産物などの生産現場に積極的に足を運び、和歌山の食材を研究した。そんな中、本宮町で茶畑を経営する同年代の女性と出会い、意気投合。くまのこ食堂に転職し、生活の基盤を本宮町に移すことに。「開業したいという気持ち芽生えたのもこの頃。農家さんと繋がりも持てるようになり、自然豊かな本宮町は、生きていくうえで幸せが詰まった街」と思い、ここで働き続ける気持ちが高まりました。

看板メニューはシュークリーム。長い時間をかけ、おいしさに挑み続けた結果、これでいくと決めた。本年4月にオープン予定だったもののコロナの影響で延期。SNSで情報を発信しながら、ようやくこぎつけたオープン初日は、ありがたいことに長蛇の列。「炎天下の中、並んでいるお客様のためにテントを設置してくれたり、駐車場へ車を誘導してくれたり」と、近所の方が何も言わずに助けてくれたんです。

オープン以来、ご近所の方々はもちろん、県内外から多くのお客さんと賑わう毎日。電話予約の受付も困難な状態だが「さらに新しいメニューを考え、和歌山の魅力をもっと発信していきたい」と未来に向かって目を輝かせていた。

choux

住所 / 田辺市本宮町本宮1571-15
電話 / 0735-30-0801
<https://choux.cc>

熊野詣での 目的地のひとつ、 熊野本宮大社



「よみがえりの地」として信仰を集める熊野三山の一つ、熊野本宮大社。室町時代には武士や庶民にも熊野信仰が広まり、あらゆる人々が絶え間なく参拝に訪れる様子は「蟻の熊野詣」と称された。明治時代に大洪水で社殿が流出し現在の地に移された。旧社地である大斎原には祠が残され、今もなおパワースポットとして多くの人が訪れる。